

刑 法

(問 題)

2020 年度

注 意 事 項

1. 問題冊子、解答用紙および貸与六法は、試験開始の指示があるまで開かないでください。
2. 問題は2～3頁に記載されています。問題冊子の印刷不鮮明、頁の落丁・乱丁および汚れ等に気付いた場合は、手を挙げて監督員に知らせてください。
3. 下書用紙は一人につき一枚のみ配付します。
4. ラインマーカー、色鉛筆、修正液等は、問題冊子・下書用紙に使用することを許可しますが、解答用紙に使用した場合は、不正行為とみなすことがあります。
5. 貸与六法への書き込みは、不正行為とみなすことがあります。
6. 試験開始の指示の後、解答用紙表紙の所定欄に、受験番号、氏名、問題番号を記入してください。受験番号は正確に間違いに記入してください。読みにくい数字は採点処理に支障をきたすことがあるので、注意してください。
7. 試験終了の指示が出たら、すぐに解答を止め、筆記用具を置いてください。終了の指示に従わず筆記用具を持っていたり解答を続けた場合は、不正行為とみなすことがあります。
8. 試験終了後、問題冊子、下書用紙は持ち帰ってください。
9. いかなる場合でも、解答用紙は必ず提出してください。
10. 解答用紙に記載の注意事項もあわせて確認してください。

問題 1 (60 点)

以下の〔事例〕を読んで、各設問に答えなさい。

〔事例〕

1. 甲は、Aを殺害して、それをBの犯行に見せかけようと考え、次のようなA殺害計画を立てた。
それは、帰宅途中のAを人通りの少ない路上で待ち伏せし、家まで送ってやるとAを欺いて車に乗せ、睡眠薬入りの飲料を飲ませて昏睡させる。Aが昏睡したら、30キロメートル程離れた郊外にあるBの事務所まで車で移送する。Bの事務所は、通常、夜間に人がいることはなく、施錠されているため、事前に入手した鍵を用いて、同事務所のドアを開け、Aを中に運びこむ。その後、事務所内でAの首を絞めて殺害し、Aを同所に放置したまま逃走する、というものであった。
2. 甲は、上記の計画に沿って、睡眠薬で昏睡させたAをBの事務所に運び入れ、ソファにもたれかからせたが、その際にAが全く動かず、呼吸もしていないように感じたことから、Aが移送中に持病である心臓病のせいで死んでしまったものと思いこみ、そのままAを事務所に放置して、立ち去った。
3. 甲が立ち去ってから、5分後、乙と丙がBの事務所の前を通りかかった。乙が事務所の窓から中をのぞき込むと、ソファに人が座っているのが見えた。その人物はAであったが、乙は、その人物がBであると思いこみ、B殺害の目的で、Bの事務所に放火しようと考えた。そこで、乙は、事務所に人が居ることに気づいていない丙に、「誰もいないし、この事務所に放火して、憂さ晴らししよう」と言った。これに応じた丙は、Bの事務所に火を放ち、同事務所を全焼させたが、中にいたAは煙で目を覚まし、自力で事務所から脱出した。

〔設問 1〕 甲にAに対する殺人未遂罪が成立するとの立場からはどのような説明が考えられるか、また、この立場に対して、どのような反論が考えられるか、論じなさい。(30 点)

〔設問 2〕 乙および丙の罪責を論じなさい(特別法違反の点を除く)。(30 点)

問題2の解答は『解答用紙(D)』を使用してください

問題2 (30点)

無銭飲食について、事例を挙げつつ、いかなる犯罪が成立するか論じなさい(特別法違反の点を除く)。

〔以下余白〕